

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	市民歩け歩け運動開催事業								
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	スポーツ係	評価票作成者	スポーツ担当係長 前田泰之	
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	生涯スポーツ・スポーツ振興		コード	4 2 1
	項	生涯スポーツ・スポーツ文化			単位施策(中)	生涯スポーツの充実		コード	4 2 1 2
					単位施策(小)	スポーツイベントの開催		コード	4 2 1 2 4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民歩け歩け運動の参加者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		市民が気軽に参加でき、健康増進に結びつくスポーツイベントを開催する。			
1-5 事務事業の内容	市民が気楽に参加できるスポーツイベントとして「市民歩け歩け運動」を開催する。「市民歩け歩け運動」は、毎月第1日曜日に市民が二村山を目指して歩くスポーツイベントで体育指導委員会の企画によるものである。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 夏季・冬季の開催時間の周知を図るため広報等でPRした。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 市民の健康志向に伴い、スポーツイベントの開催に関心が高まりつつある。	市民ニーズの認識 市民にとって気軽にスポーツに参加できる機会が必要とされている。
	平成19年度	事業周知のため、市広報及びケーブルテレビにてPRを図った。	メタボリックシンドロームからくる生活習慣病などが懸念されている中、運動による肥満予防の観点からも気軽にできる運動が必要とされている。	手軽にできる運動として、子供から高齢者まで幅広い参加があり、健康増進の目的からも必要とされている。
	平成20年度	事業周知のため、市広報及びケーブルテレビにてPRを図った。	歩くことにより健康を維持しようとする方が多くなり、徐々にではあるが参加者が増える傾向にある。	道具も必要とせず、一番手軽にできる運動として、子供から高齢者まで幅広い参加があり、健康増進の目的からも必要とされている。
	平成21年度	〃	〃	市民の健康づくり意識が年々高まり遠方から参加される市民が多くなった。
	平成22年度	本年度は行政改革の一環で参加賞を取りやめたことと、天候の関係で参加者が減少が見られたが、市民の健康志向が高まり及び市民への広報等での周知により参加者を増やしたい。		
	平成23年度	本年度も参加賞を取りやめたこと及び天候の関係で参加者が減少が見られた。しかしながら、高齢者を中心に市民の健康志向が高まっていることから広報等での周知により参加者を増やしたい。		
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	市民歩け歩け運動の参加者数(人)	5,500(人)	5,600(人)	現在の参加者から5%アップ増えることを目標とする。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単	5,369(人)	4,949(人)	5,440(人)	5,366(人)	4,887(人)	4,031(人)				
	直接事業費 b(千円)	963	583	555	694	300	237				
	人件費 c(千円)	115	115	115	115	111	108				
	合計コスト d(b+c)(千円)	1,078	698	670	809	411	345				
単位コスト d/a(千円)	1人当たり0.2	1人当たり0.14	1人当たり0.12	1人当たり0.15	1人当たり0.08	1人当たり0.09	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 事業費 講師謝礼 65千円 報償品費 75千円 印刷製本費 97千円
人件費 市民歩け歩け運動 3,000円×3H×1人×12月=108千円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	5,369	4,949	5,440	5,366	4,887	4,031				
	後期目標値に対する達成度(%)	95.9	88.4	97.1	95.8	87.3	72.0				

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A	A	A	A	A	A				

4 段階評価結果

- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準

- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	団塊世代が参加しやすい、スポーツイベントを企画する。	体育協会・レクリエーション協会・体育指導委員会等の組織を使ってPR活動をする。	市民が参加しやすいスポーツイベントを提供した。
平成19年度	健康を意識した高齢者の参加が多く、運動が不足がちな若い年齢層にも参加してもらえるイベントにする必要がある。	〃	〃	
平成20年度	健康を意識した高齢者の参加が多く、継続的に参加することにより健康を維持すること肝心でもあり、若い世代への積極参加をアピールする必要がある。	〃	〃	
平成21年度	〃	〃	〃	
平成22年度	健康を意識した高齢者の参加が多く、継続して参加している人も多数あり、誰もが、一人でも比較的参加しやすいイベントであり、これからも積極的に取り組みたい。			
平成23年度	〃			
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			